

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 3 月 22 日

事務事業名		指定文化財等維持管理・調査事業				事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け				新規/継続	継続	事務事業No.	030501000903
		総合計画の施策名				単独/補助	補助	所属課	090601
		0305 文化財の保存・活用				主要事業	対象外		生涯学習課
政策体系		政策名	03	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり		市長マニフェスト	対象外		
		施策名	05	文化財の保存・活用		未来PJ事業	対象外	グループ	施設管理G
		基本事業名	01	文化財の保存		合併建設計画事業	対象外		
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	10	05	04	01	00	文化財保護事業		
法令根拠		文化財保護法、茨城県文化財保護条例、桜川市文化財保護条例							

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像) 文化財の維持管理や調査を行い、現状を把握してそれらを後世に伝えていく。 指定文化財の所有者が保存修理等を行う場合は、補助金を支出する。修理のための技術指導を行う。
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 文化財の維持管理 現状の把握を行い、所有者の要望に応じて修理補助 (国・県・市費) を行う。文化財修理に必要な指導・助言等をし、適切な業者の選定などを行う。 防災設備の保守管理等に対して補助を行う。 指定文化財の維持管理に対して報償費の支出をする。 指定文化財啓発のため、標柱を作成する。 文化財の調査 指定の有無を問わず、文化財の調査や確認を行う。必要に応じ、専門家の指導を受け、未指定の場合は指定に向けて調査を進める等の作業を進める。

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
市補助金は交付要項に基づき、補助金申請を行い、実績報告確認後、支出する。 市内の文化財を調査し、現状を把握する。	修理・保守点検件数	件	3.00	6.00	2.00	2.00	0.00
	調査件数	件	12.00	15.00	15.00	15.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
文化財	指定文化財の数	件	126.00	126.00	128.00	128.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
文化財を後世に引き継ぐ	修復・保守点検を終了した指定文化財の数	件	3.00	6.00	2.00	2.00	0.00
	作成した案内標柱の数	本	2.00	1.00	2.00	2.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	期間限定総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	5,294	4,710	8,915	3,000	0
	事業費計 (A)	千円	5,294	4,710	8,915	3,000	0	
人件費	正規職員従事人数	人	3.00人	5.00人	3.00人	3.00人	0.00人	
	述べ業務時間	時間	348.25	432.00	350.00	350.00	0.00	
	人件費計 (B)	千円	1,010	1,253	1,015	1,015	0	
トータルコスト (A) + (B)		千円	6,304	5,963	9,930	4,015	0	

事業費の内訳	28年度事業費 実績 (千円)		29年度事業費 予算 (千円)	
	08 報償費	55	08 報償費	55
	15 工事請負費	148	15 工事請負費	6,981
	19 負担金補助及び交付金	4,507	19 負担金補助及び交付金	1,879
	合計	4,710	合計	8,915

(4) 当該年度の実施内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	指定文化財等維持管理・調査事業	事務事業No.	30501000903	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
優れた文化財を後世まで保存するため、継続的に調査・修理を実施している。開始時期は明らかではないが、事業を続けることにより、市民の文化財に対する関心も深まっている。	
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	
年間で2～3件の修理要望がある。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	優れた文化財を後世まで保存するため、状況に応じて、国、県の補助採択または市の単独行事等の方法で効率的な文化財修理保存整備の種別を関係機関と連携しながら選択し、実施していく。 文化財修理は多額の負担をともなう場合もあり、市と所有者双方の資金確保が課題となる。補助事業の採択も計画的に行う必要があり、予算確保とともに、日常的な巡視や、事業の計画を綿密に行うことで、事業の有効性を向上させる必要がある。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 文化財の適正な保護や歴史文化への理解を深めることに結びついている。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 文化財の適正な保護について公共関与が失われると、これらの文化財の維持管理が困難となる。
	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 修理が必要な文化財は多く、成果向上の余地はあるが、所有者の資金確保及び県・市の予算確保が困難である。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 廃止した場合、文化財の維持管理に大きな支障をきたす。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 修理専門業者と相談しながら事業費の削減を進めている。
⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）	
<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 対象は指定文化財であり、所有者の負担軽減を図ることで文化財の維持・継承がなされている。また、修理された文化財は市民向けに一般公開されている。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	修理要望は毎年あるが、予算が限られており、破損状況などの優先順位を見極め、計画的に進めている。今後は更なる予算確保をおこない、修理を進めたい。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			○																				
	維持			×																				
	低下			×																				
優れた文化財を後世まで保存するため、状況に応じて国・県の補助採択や市単独事業等の方法で効率的な文化財保存修理を実施していく。 文化財修理は多額の負担を伴うこともあり、市と所有者双方の資金確保が課題となる。予算確保と共に日常的な巡視や事業計画を綿密に行うことで、事業の有効性を向上させる必要がある。		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果																						
		コスト削減優先度評価結果																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価	確認欄
<input type="checkbox"/> A：継続（現状維持） <input type="checkbox"/> B：継続（改革改善を行う）	<input type="checkbox"/> C：終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> D：2次評価へ提出